

第35号

発行 丸橋 齒科「良い歯の会」
発行所 群馬県高崎市栄町21-1
TEL 027-323-9524
FAX 027-322-3139
http://www.maruhashi.com/
E-mail:maruhashi.s@cb.wakwak.com

医・農・智

無機から有機へ
繰り返す 光年の 輪廻
自然治癒の システム
母なる力 いのちの力

(仁志)

「良い歯の会」機関紙

いのち

よく見える目を持ち
自由な視点を貫く

「良い歯の会」 主宰 丸橋 賢



写真：イトン校の中庭を燕尾服を着て歩く学生

大方の人びとは、時流に左右され
て物を考えます。その目に映る光景
は、時流によって作られたものです。
自己の外なるものに依って見たり考
えたりし、目先の猥雑な利害や人間
関係によって、生きる人間、それを
私は大衆、又は通俗と定義していま
す。そこには固有のその人は見られ
ません。そこから真実を見通す目も、
新しい世界観も生れることは決して
ないのです。

イトン校は、イギリスの保守思
想を象徴していると思えます。保守
思想は、大衆も含め、人間に不幸を
もたらす失敗を少なくするために、
頭脳も考え方も立派なエリートに国
の操縦を託すべきだと考えている
のが特徴です。大衆を信用していな
いのです。固有の判断力や責任力の
弱い大衆に歴史を任せる危険を知っ
ているからです。しかし誤解してい
いけないのです。イギリスの保守思
想は大衆を大切にしているのです。
大多数の大衆に、人間の過ちからく
る不幸をもたらさないために、エリ
ート教育に力を入れ、安定した国を
維持しようとしているのです。大衆
の弱点をよく知り、その欠陥を防ぐ
知恵を大切にしているのが、保守思
想の真髄でしょう。

イトン校のエリート教
育とイギリスの保守思想
イトンカレッジはイギリスの超
エリート大学です。東大などより狭
き門で、このような大学を出た人材
が政治をはじめ、各界で指導的働き
をすることを求めている、それがイ
ギリスの文化の骨格になっていると
感じられます。

教室、食堂、図書館など、全ての
部屋は中世を思わせる作りで、机も
昔から伝わっている木製です。それ
がきれいに磨かれ、校内にはゴミ一
つ見られません。礼拝堂には壮大な
伝統に輝くパイオルガンがあり、
学生たちは燕尾服様の制服に真白な
シャツにネクタイです。対してアメ
リカの一流大学の様子は全く違いま
す。ラフな服装で、お行儀悪く座り、
歩きながらファーストフードを食べ
ています。

アメリカの教育観は、教育学者デ
ューイの影響下にあります。子供が
太陽のように中心に在るべきで、大
人や社会は子供を衛星のように取り
囲み、子供の自由を奔放に生かすべ
きだとするのが、デューイの思想で
す。その結果、アメリカの教室では
授業中にスマホやゲームに熱中する
学生も多く、銃撃も時々起ります。
日本の教育もアメリカの影響下にあ
ります。

イギリスの教室では、先生が来る
と私語も消え、時計の音さえ聞こえ
るほどだと聞きました。騒ぐ生徒が
いれば、家庭教育の責任を問われ、
親に引き取らせるのです。要するに、

責任を問うた上で自由を全面的に与
え、国民一人一人の質の向上を目指
すことがイギリスの文化が内に秘め
る強い要請なのです。
日本のように、低きにも弱きにも
文化を低下させて寄り添うという方
向で本当に良いのでしょうか。それ
が本当の優しさだと到底思えませ
ん。優しさごっこはもう止めるべき
だと思ふのです。

丸橋歯科が辿ってきた治療の質の
向上も、全人歯科医学の構築も全て、
貫き通した私の目と視点の結果だと
思っています。私の視点から見れば、
現在の私たちの治療の質も、全人歯
科医学の構築も、ただの常識にしか
過ぎないのです。私の実感ではそう
なのです。日本の歯科医療で常識の
ように行われている粗末な治療こそ、
私には非常識、非人間的としか受け
止められないのです。

初診の患者さんを百人診れば、そ
の中で、根管治療がきちんとしてあ
る症例は一例も無いといつてよい現
状です。インレーやクラウンも歯と
の適合が粗悪で、隙間が認められる
ようなものばかりで、これでは間も
なくムシバが再発してしまふのは当
然です。まして非常に難しい治療で
ある咬み合わせや、それに絡む矯正
治療など、人間に絶望したくなるほ
どひどい状況です。その結果、歯科

自由な視点に導かれて行く
世塵に曇らない目を保ち、既成概
念に囚われない自由な視点を貫くこ
とが最も大切だという信念で、私は
生きてきました。日本の文化の基軸
に、そのような思想を育てなければ
日本の低俗化は進むばかりだとも考
えてきました。

せめて客観的な広い情報から
世界を歩いてみると、島国の
日本人が得る情報はかなり狭い
ものだと感じます。中東で、十
字軍以来続いてきた宗教対立、
文明の衝突は今も続いています
が、日本人はその現実も本質も
知り得ません。日本に入つて来
る情報は、ユダヤ系大資本のマ
スコミ配信のものが多く、曲げ
られたものになっています。せ
めて世界に支局をもつ全国紙や
放送局の情報を利用する必要が
あることを痛感します。地方紙
に頼れば、それだけ世界が狭く
なります。日本の民放の低劣さ
も世界に例を見ず、やはり世界
を歩いて見ることは大切です。
今年が良い歯の会の三十五周年
記念事業を盛大に成功させ、
現状を切り開く力にしてゆきた
いと思います。歯科医療と健康
教室の明日のために是非お力を
お貸し下さい。

35周年特別招待演者紹介
大塚 貢氏
略歴
昭和11年 長野県生まれ
昭和35年 信州大学教育学部卒業
平成9年 真田町教育長
平成18年 上田市教育委員長
平成19年 教育委員長退任
平成21年 文部科学大臣表彰
「瑞宝双光章」受賞 現
教育・食育アドバイザー

「良い歯の会」35周年記念事業
命を支える
食と歯
参加無料
特別講演 未来の子供を育てる食
35周年記念講演 健やかな壮老年を創る
治療講演 歯と歯
高崎会場 9月6日(日)
東京会場 10月18日(日)

活動に寄せて

これからの医療と御祝

新潟大学名誉教授

安保徹

昭和20年代から昭和40年代くらい前までの日本はまだ貧しく、医療の恩恵を皆んなが受けることもままならぬ時代でした。それゆえに、工夫すれば明るい未来があると思いがんばって進む時代でもありません。

その後の色々な分野での発展は、ずい分日本人を元気にしてくれましたが、最近では頭打ちや停滞の分野も多くなりました。特に、医療の分野では専門化が進み、からだ全体の仕組みや患者の不安を適確に判断できる力はむしろ低下しているようにも思われます。

私は、からだの仕組みや病気の成り立ちの理解は、全身をたばねるシステムを知ることによって可能になる、と思いを続けてきました。そのキーワードを挙げると「自律神経」「体温」「白血球」「エネルギー生成」です。

私達人間は、長い人生の間に、忙しさを抱え込むことがありますが、まずはじめに責任感の強い人、あるいは感受性の高い人は、このような時、必要以上にストレスを受けることとなります。交感神経が緊張して、低体温になり、顆粒球がふえ、好氣的ミトコンドリア系が抑制されてしまいます。病気の成り立ちが見えてくるでしょう。

35年の重み

農文協プロダクション 代表取締役
企画プロデューサー 鈴木敏夫

人生振り返って、ありがたいなと思うことが二つあります。22年前から水泳とランニングに取り組み、継続出来ていること。さらに遡って33年前に丸橋先生に出会い、歯の治療とケアを怠らなかつたことです。「編集者は胃を壊して一人前」と



'04年9月 高崎講演「全人医学と免疫力」会場控室にて談笑される安保先生

言われる業界で、徹夜での原稿書きや編集作業は当たり前、いつもメ切りで追われていました。当然20代から胃炎に悩まされ、40歳前に十二指腸潰瘍を発症。この時は、繰り返しのお腹の鈍痛に耐え抜き、仕事が落ち着いた四ヶ月後に胃カメラを吞

んで原因判明。同い年の医師から「大変でしたね。このままだとまた再発しますよ」と警告されました。実はその医師も同じ状況で、「我々のように仕事に追われ続けていると、死んじゃいますよ。何かを変えない」と言われ、帰りにスポーツ教室に即入会しました。入会して定期的に通い始めたのは2年後、仕事のサイクルや生活習慣は簡単には変えられませんが、当初の歩みは遅々としていきましたが、続けるにしたがい泳力や走力もつき、痩せた体も恥ずかしくな

い程度まで筋肉が付きました。その前提として、しっかりと食べられるようになっていたからだと思います。何よりも歯の痛みに悩まされることはありませんでした。30歳になったばかりのころに、良い歯の会に参加して食生活を学び、30代半ばに治療が不完全で悩まされていた奥歯の根管治療をしていただきました。20年後にその歯が割れてダメになり、結局インプラントにしました。50代半ばのその時に、丸橋先生からは「多くの人が、体力が落ちて

から治そうとして苦しんでいます。定年後にじっくり歯を治そうとするのではなく、鈴木さんみたいにまだバリバリの現役にうちにしっかりと治しておくことです」と。

今、選歴を過ぎて、多くの友人が歯槽膿漏等で歯を失い元気を無くしています。それに比べ何ら変わりなく働き、またスポーツを楽しめるのは丸橋先生をはじめとする丸橋全人歯科のスタッフ皆さんのおかげと感謝申し上げます。「良い歯の会」のすばらしさは、年を積み重ねてようやくわかるものですね。

「良い歯の会」35周年おめでとうです。

主婦 高草木文乃 (群馬県 42歳)



'11年全人歯科で良い歯の会について話をされる鈴木さん

「良い歯の会」三十五周年、おめでとうございます。毎年発行される「いのち」が楽しみで、健診の際には必ず手取り拝読していました。時代の流れと共に変化する現代社会の影響でさまざまな症状に悩む患者さんの方々の手記を読んでいると、「良い歯の会」で問われてきたように、謙虚に真実を見つめていこうという認識をもてるかどうか、大事なことなのかなと思います。少しでも認識に変化があつて実際に生活に変化があると、お口の中はもちろん身体の方にも良い方向への変化がおき、沢山の患者さんの方々がその経過に驚き、そしてまた毎日の生活が楽しいと手記で報告していらつしやいました。「良い歯の会」で学んだ認識の変化とともに、少しずつでも実際の生活に変化を起こしていくことは大切なことですね。私を十年前に初診で診てくださつ

てからその後、家族や義母、母がお世話になっております。皆歯のことで特に悩んだ事はなく、毎日元気に暮らしております。十年前はなかなか近くでは手に入らなかつた無農薬有機野菜を始めとする食材も、今では、価値観の多様化の影響もあるかもしれませんが、「こだわりのある商品」としてスーパー等でも手に入りやすくなつてきたような気がします。主婦としては必要な時にすぐ手に入るお店が近くに沢山あるかどうかは大切なことだし、また、一つの選択としていつも身近にあることはこのような食材を必要とする方々の輪を少しずつでも広げていくのに大事な事だと思ひます。これからも「良い歯の会」に参加される方々が心も身体も食を通して元気になられますこと、お祈り申し上げます。また、先生方々の御活躍もあわせてお祈り申し上げます。

祝！35周年「良い歯の会」

株式会社アイホー炊飯総合研究所
取締役研究所長 平田孝一 (74歳)

35周年おめでとうございます。

「良い歯の会」にはじめて参加させていただき、私もインプラント治療を丸橋全人歯科様に安心しておまかせしようと決心しました。9本のインプラントを入れてから数年、人工歯が自分の超健康歯に感じるまでに数か月もかかりませんでした。と言うのも、何を食べてもバリバリと良く噛んで食べられることがあって幸せなことかと体感で思つたからです。朝晩は少なくとも歯磨きしてきたのに、虫歯と歯槽膿漏で歯医者に行き、1本、2本と抜かれて、差し歯と入れ歯の繰り返しでした。最後には総入れ歯になると思うと、人間の体作りのための栄養を口から取り入れ、食べるために歯が必要であるのに、しっかりと噛めないのではと思うと、滅入っていました。虫歯を治療してブリッジにし、さらに、ブリッ

ジした自分の歯が虫歯になつてしまつた時から、もうインプラントしかないと考えていました。ちょうどその時、丸橋先生の本に巡りあい、丸橋全人歯科の患者に対する対応と、西洋医学的な局所だけの治療ではなく、人間として生きてゆく限り歯を大事にするため、「医・農・智」の3つの漢字に象徴される、人体と食と知識の調和が大切であるという思想に感銘を受けました。また、歯と体が健康であつてこそ人様の役に立つことが出来ると思ひました。体験者として、「良い歯の会」は、健康には歯が大事だよ、その歯を健康に、人生が終わるまで保つには、まず栄養を取ることだよ、そして、食べ物を選ぶことは体全体を健康にし、正常な精神を養うことにもなるのだよと教えてくれる人間道場であると感じています。

チーム医療に恵まれて

主婦 根岸節子 (群馬県 68歳)

親も子も予防医学の知識などなく食べるのが精一杯の子どもの時代。歯が痛くても「置き薬」を飲んで、我慢できないほどになつてから受診するのは珍しくありませんでした。山道を歩いてバスに乗って、治療はちよこつとでまた次回に……。三人の妹の母親代わりの私には、通院はとても困難でした。

就職してからは、早めの受診を心掛けましたが、詰め物はすぐとれてまた詰めてのくり返しで、抜髄、抜歯。ブリッジは我慢できず、帰りの車に乗ると外さずにはいられませんでした。顎関節は音がして開口困難になりました。総入れ歯は時間の問題と覚悟していました。

長年の在宅介護の親を看取り、定年退職を機会に、主人に背中を押してもらつて、全人歯科の受診実現!! 根だけになった酷い歯を申し訳ないほど丁寧な根管治療をしていただいたこと。開口が儘ならない顎関節

を院長先生と技工士の方と綿密に検討しながら咬合調整をして治していただいたこと。造骨手術をして何本のインプラントをしていただいたのに、処方された痛み止めを使わずに済んだこと等々。総合的で心の通つた診療体制に驚き、喜び、感動の連続でした。私に時間があれば長時間(長い時は六時間位)治療をしていただき、とてもありがたかつたです。治療前は人と会つて話すことは避けたかつたのに、今は相談の仕事にも関わらせてもらつています。様々な困難の中、患者の利益に徹して治療に臨んでくださつていらっしゃる方々に、歯や体を蘇らせていただいただけでなく、物を見つめる純真な心や強さも育んでいただきました。院内に飾られた野の花にも、病んで多くの人が癒やされていることとでしよう。私のように。

「良い歯の会」35年の

絶望から希望へ

男性 須山賢三（神奈川県 72歳）

私はとても歯の丈夫な子供でした。疎開先ではとても硬い炒り豆をよく食べていました。20歳までは歯科医にかかった事は一度もありませんでした。私の歯の苦勞は30歳過ぎから始まります。海水浴中に息子の頭にぶつかり、前歯が一本折れてしまいました。自覚はありませんでしたが、歯や歯茎の劣化が進行していたのだと思います。

40代になり、歯槽膿漏による本格的な歯の苦しみが始まりました。50代からは歯を失うことに対する恐怖と不安、近い将来、総入れ歯になるのではという心配と絶望の気持ちでいっぱいでした。友人と食事をしていても憂鬱で楽しくありません。歯に対して次第にあきらめの気持ちに陥っていききました。

そんな時に丸橋先生の著書に出会い、薬にも頼る思いで、高崎の丸橋歯科クリニックを受診、あれほどズキズキと痛かった歯の痛みが、治療

夢が叶った幸せ

保育園園長 清水啓子（茨城県 68歳）

ニコツと笑った時に見えるきれいに並んだ白い歯と、一週間にも渡るズンズンとした歯の痛みからの解放は、若い頃からの夢でした。

私は、小学四年生の時に八重歯になるからと必要な歯を抜き、その後前歯の中心がずれ、すき間もでき、歯をみせるのがはずかしく、思いきり笑う事ができませんでした。又、年齢と共に奥歯と前歯がムシ歯となり、治療に行くのですが、良い歯科医に出会えず、奥歯に脱脂綿を詰めて被せ、年数が経つとその脱脂綿が腐り膿となり、ズンズン痛みがくるというものでした。今思うと本当に恐ろしくなります。何軒か歯医者を変えたりしたのですが、仕事と義父の介護や義母の看病があり、かなり無理をしてきた為全身に痛みが、夜はその痛みで眠れず、体はコチコチに固まった様な状態となっていました。この時も歯の痛みが出、左右の奥歯と前歯が一ヶ月に一度、

後にはうそのように消えていきました。良い歯の会にも出席し、「人は認識の程度にしか変わらない」という先生の言葉に感銘を受けました。なぜ悪い歯になつたのか、原因と結果を認識し、歯に良いことをできる限り実行しようと思えました。スナック菓子や砂糖の怖さ、質の良い食生活の大切さ、心の持ち方と免疫力アップまで、たくさんのお話を聞いて学び、日々の生活で実行しています。丸橋全人歯科という名前には、歯科治療だけでは限界がある、心と身体双方の健康を追求してこそ良い歯が維持できるのだという思想を感じます。

2年後にはグラグラする歯はなくなり、治療も受けるインプラント治療も受けましたが、20年経つた今でも、先生の治療のおかげで歯は安定し、とても調子が良く、自分の歯で食べる幸せを実感しています。丸橋先生やスタッフの皆様のおかげと深く感謝しています。

交互に一週間位痛みました。もうどうにもならなくなっていた頃、職場の同僚が丸橋先生の本を貸してくれ、夢中で読みました。そして、この先生であればこの体を治して下さるかも知れないと、すぐに予約をとりました。予約の日がとて待ち遠しく思つた事を今でも覚えています。当日丸橋先生は私の話と状態を見、「これは噛み合わせを治せば治りますよ。」と奥歯を削り咬み合わせを調整して下さいました。この時私の首は、自覚症状がないまま小刻みに震えるといった事も起きておりましたが、何となく首の震えは治まりました。この事を家族に話しても最初には信じませんでした。丸橋全人歯科であれば私の体は治ると確信し、その後、悪い歯はインプラントにし、今はきれいに並んだ白い歯と何でも食べられる丈夫な歯。丸橋全人歯科のおかげで夢が叶いました。本当にありがとうございます。

第二の人生を歩む

匿名 女性（60歳）

今、私は口を大きく空け、笑い語り合う日々、第二の人生を歩んでいる。10年前のある朝、上の歯が落ちてきた。あの恐怖は今も忘れられない。どうにもならない現実を突き付けられ、新聞広告にあった本から、丸橋全人歯科にたどり着いた。その当時、心身ともに疲れ果て、ポロポロだった。生き方の不器用な私は、狭い地域の中で、「よし」と受け入れられないと答えた時から、四面楚歌の状況に陥つた。考えてみるとこの10年余りの時間、「がん」の発病も加え、様々なことがあった。

歯科治療を通し、最も大きな事は、生き方を支えて頂いた事だと思ふ。まさしく全人的に大切に下さる思想の基に、辻本先生方の徹底した、確かな治療への姿勢、最新技術を導入される日々の研鑽、2、3時間治療にかかっても「電車に間に合いますか」と気遣ってくださる優しさ、1本1本失っていくショック、

後ろから見守って下さる視線に、勇気を頂き、乗り越えることができた。そして、今は仲間・友人も増えてきた。また、「良い歯の会」のおかげで、自分を大切にする様になった。自分の時間を持つ、小松菜を食べる等、完璧ではないが大切と知つた事を実行に移せるようになった。先生方は決して私自身の生活を聞き出し、論ずるという事はされなかった。しかし、「歯垢だけが原因ではない」「生活習慣病である」等、受診時に学ぶことから、自分のこれまでの生活を振り返り、生活の在り方とことん考える機会となった。

これから、頂いた健康を守りながら、大層な事柄でなく、自分を活かせるような高齢者になりたいと考えている。これまでの活動経験が役に立つのなら、若い人に伝えることにも努力したい。また最近、以前から興味があった歴史等、旅行にも出かけ始めた。感謝の毎日である。

渡辺浅乃さんを偲び35周年に祈る

丸橋全人歯科理事 丸橋裕子

35周年を迎える良い歯の会を、かつて良い歯の会の要となつて支え生きた渡辺浅乃さんほどここで見ていてくれるだろうか。私は2008年3月12日の故人を偲ぶ会での挨拶で、渡辺さんの死によつて良い歯の会の一つの時代が終わつたという悲しみと感慨をお話しました。それは良い歯の会に参加し、深くかわつて下さった方々にも共有の想いでした。彼女は太岡昇平や武田泰淳といつた戦後思想の読書会や、1976年から毎年19年も続けられた院内研修会での文学や哲学にも深く踏み込んだレポートなどから、人はどう生きるべきなのかを学び、常に自分の生き方を持つて人々に示していきたい。その生き様は真実を求め、嘘を激しく嫌う、一本に貫かれた真実への道のようでした。裏表のある態度や好い加減なやり方は厳しく拒否

されました。それは自分自身にもいつも向けられ、そのために苦しむ姿もありました。

いのちの新聞2号から始まり、8号からは毎号巻頭言「医・農・智」を執筆し、そのあふれる思いに心を打たれた方も多かったと思います。第15号の巻頭言は全人歯科玄関の左にある記念碑に刻まれています。渡辺さんとはたくさん活動を共にしましたが、いつも睡眠時間を削る程の全力投球でした。しかし、数々の活動が無事成功裡に終わった時の充実感や苦勞を乗り越えた者へのみ与えられる喜びでした。これからの良い歯の会を支え、さらに発展させていく若い人たちに是非伝えたいことは、良い歯の会の活動とは「かたち」を受け継いでいくことではなく、その活動への自分の願いを持ち、仲間と共に力を合わせて「こころ」を

たぐさんの素晴らしき方々との出会い

丸橋ファミリー歯科院長 青木博之

育てていくことなのだというところで。渡辺さんとは海外への調査の時と同室のパートナーのことが多く、素顔の彼女の可愛い面も知る事ができましたし、ワインを愛する楽しい飲み仲間でもありました。2007年のイランへの最後の旅行の時、ヘジャブというかぶり物が必要と言われ、黒い兵児帯を半分に分けて作ってもらいました。二人ともまるで女忍者で、イランの方々に大いに受けました。渡辺さんを偲びながら、良

良い歯の会の活動を通して沢山の素晴らしい方々と触れ合うことができました。自然保護活動であれ、有機農業や本物食品の普及活動であれ、自分が経験した素晴らしいことを周りの人々にも伝えたい、そのような純粋な気持ちを持った方々ですから、人間味が溢れ、心根の優しい方々が多かつたように思います。お話を伺うことも楽しく、お知り合いになれたことをとても感謝しています。

写真1は26年前に埼玉県で自然農法を実践する須賀一男さんの畑を丸橋歯科の研修旅行で訪れた時のものです。私が勤めて2年目のことです。須賀さんは若い頃に病気がちだったという事で、それが自然農法へと導かれた切掛だったそうです。河原の土手で実際に堆肥作りをして

んが一つになって畑を支えている姿がとても印象的でした。

写真2は環境保全や緑化保全に尽力された滝田吉一先生と山歩きをした時の写真です。自然や動物、そして我々にもとても優しい眼差しで見つめられていた姿がとても印象的な先生でした。先生の解説を聞きながら山歩きをすると、自然の素晴らしさ、偉大さを本当に堪能できるので、自然に感謝する気持ちが湧き上がり、不思議と自然に囲まれている自分自身がとても幸せな存在に思えてくる、そのような経験が何度もありました。自然と深く関わって生きて来た、私たちより少し前の世代の知恵や経験を楽しんで教えてくれる先生のお話は絶品この上なく、皆が先生の話がよく聞けるように競って近くを歩いたのです。山歩きの途中で休憩をとりながら、目の前で野草の天ぷらを揚げてご馳走していただいたことが今も忘れられない思い出です。



写真1：須賀さんと



写真2：滝田先生と



イラン ハーフエズの霊廟にて

い歯の会の成長を見守ってくれらることを祈りたいと思います。

「良い歯の会」35年の活動の歴史をふり返る

広い視野で探求し続ける健康

「良い歯の会」は昭和56年7月に第一回が開催されました。その時の出席者は19名、そして瞬く間に連雀町診療所の研修室が満員となる40名を超える出席者を数えるようになりました。そして今年、平成27年7月には、毎月一回の定例の「良い歯の会」が409回目を迎え、外部の講演も含めると、出席者は6万5000人を超えるほどになっています。35年間一度も途絶えることなく、今でも参加者の心を捉え、深い気付きを与え続ける「良い歯の会」は、歯科では全く類を見ない健康教室となっています。

「良い歯の会」35年の歴史を振り返る時、忘れてはならないのが今は亡き渡辺浅乃さんの存在です。「良い歯の会」創設から、毎回の講演・試食の準備、対外講演や啓蒙活動等、丸橋先生とともに「良い歯の会」を築き上げてきました。その渡辺さんが「いのち」の第一号で次のように記載しています。「私達は毎日、歯槽膿漏やムシ歯に対して、治療やブラッシング指導など一生懸命行ってきました。しかし、徹底的に治療をしてもこれ以上回復しないという歯槽膿漏やムシ歯のように治療—再発—治療というくり返しの状態を見ていると、口の中の治療だけでは本当の健康は得られないと思うようになり、病気の原因を口の中だけに求める医療の限界を強く感じ、「良い歯の会」が最初の小さな一歩を踏み出したことがうかがえます。熱意をもって着実に活動を続けた結果、2006年には文部科学省や厚生労働省が後援する「地域に根ざした食育コンクール」において特別賞を受賞しました。その時の渡辺さんの嬉しそうな笑顔が今も思い出されます。

自然・環境保護に対する活動

我々は、社会の一員として生存している限り、必然的に周囲の環境から影響を受けます。本質的な善悪にかかわらず、個人個人の考え方や欲求の方向性、その力の総和が社会全体の流れとなり、結果として自然環境を破壊し、そこで生活を営む我々の健康を害することは残念ながら多岐にわたります。良い歯の会発足当時、虫歯や歯周病をどんなに的確に治療しても再発を繰り返す、快方に向かない難病ともいえる多くの例を診るうちに、口の中だけ治療をしても根本的に治らないのではないかと、強い疑問を抱きました。「いのち」の2号に、異様に多い虫歯や歯槽膿漏は「社会が病み、自然が病み、その結果として食品や食生活が混乱したことの影響が人間の心身にもたらした荒唐である」と記載されています。そうであるならば、難病は実は我々自身が作り出したものであり、病を真に治すためには、我々を含め、社会や自然をそっくり癒してゆかなければならないという結論に至ります。この考えが丸橋先生の著書、「癒しの思想」となつてゆきます。何の疑いもなく横たわる世の中の本流を変えてゆく、この絶望的に高い壁を乗り越えるべく、良い歯の会は歩み始めます。こういった考えのもと、良い歯の会が初期の頃取り組んだのが、自然保護・環境改善に対する啓蒙活動です。この時自然から学んだことが、その後の丸橋歯科の治療や良い歯の会に大きな影響を与えています。(写真1)

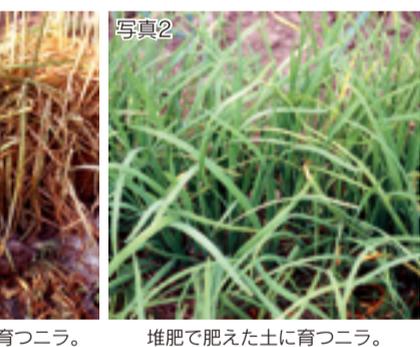


丸橋先生に学ぶスタッフ。先生は自然やいのちの営みについて目を見開かされた。

研究・実績を上げてきた食事指導

我々の体は日々食べるもので作られ、生命活動を営んでいます。歯科では未だに物体としての歯を治すことだけに集中し、治療する傾向がありますが、歯や歯を支える骨、歯茎が単独で存在するわけではありませぬ。良い歯の会発足当時、丸橋歯科では歯科の技術を駆使しても治らない歯周病に対し、体の栄養状態を改善することで、人間が本来持っている治癒する力を高め、治療を行う方法を編み出しました。良い土には生き生きとした草花が育つという自然の秩序は、当然人間にも当てはまるという丸橋先生の考えからすると、必然の流れであったと言えます。いのち1号に丸橋先生が良い歯の会で患者さんによくお伝えする二つの話も掲載されています。同じ環境であっても、堆肥で肥えた土に育つニラ(写真2)は、化学肥料で育つニラ(写真3)より立派で色がよく、アブラムシもほとんど寄り付かないのに対し、後者で育つたニラはアブラムシが真つ黒になるほど多量に附着して、枯れてしまった(写真3)。

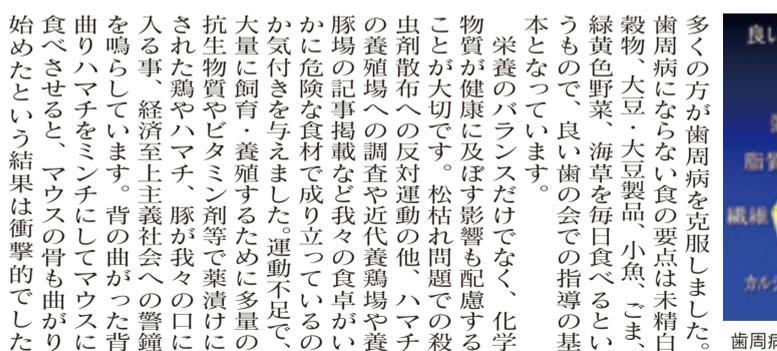
える運動体としての良い歯の会の第一歩が記されています。宮脇昭先生を招いて特別講演会「生存の条件」が多く参加者を得て、群馬音楽センターで開催されたのです。宮脇先生は32年間かけて日本や北半球の多くの国々を歩き、植物の生態系を研究しました。そして、開発や公害によつて植物の生態系があつてなく崩れ、生産者であり生物社会の主役であるべき植物が消えることは、人間の存在を脅かすものであることを警告しています。多くの研究調査から、自然が豊かであった古代メソポタミア文明やエジプト文明が、緑の盛衰と一致して滅んでいったとする考えは、自然と人間との共存の大切さを参加者の心に刻み付けました。自然環境を守る活動の輪を広げた点で意義深いのが、「自然と命を守る県民会議」の結成です。高崎市の観音山への松くい虫防除のため、市が殺虫剤の空中散布計画を発表したのを契機に、これに反対する「良い歯の会」、「高崎自然に親しむ会」、「高崎市民生協」他18の団体が結果しました。当時全国的に認められた松枯れは、松くい虫が松を枯らすのではなく、環境悪化が松を枯らすため空中散布は無効であり、さらに殺虫剤は環境を汚染し、人間の健康を脅かす化学物質であると訴えました。私たち人間が作ってきた社会や文化は根本から病んでおり、自然を破壊し、水や空気や土を瀕死の状態にしています。良い歯の会が事務局を務めた「自然と命を守る県民会議」は、このような状況の中で、かけがえのない「いのち」の健康を実現してゆくと、多くの人たちの力を結集し、既存の社会や文化という巨大な壁を壊し、変えてゆこうとするものでした。一人の力では到底できないことでも、健全な「いのち」の明日を創るといふ共通の理想を持った人々が集まれば変えてゆける。当時の丸橋先生が待ち望んでいた会の発足でした。その後も「自然と命を守る県民会議」は自然保護、既存の文化、社会への提言をテーマに宮脇昭先生や日野厚先生(医学博士)他多数の講師を招き、何度も講演会を主催し、積極的な活動を行いました。



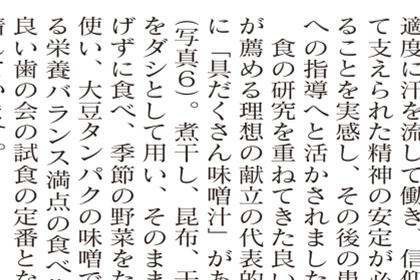
堆肥で育つニラ。 瘦せた土に化学肥料で育つニラ。

健康な人々とはどのような食生活をしていくのかを知り、理解を深めるため、MOAの大仁自然農場と赤城山学園で調査を行っています。

肥えていけば、環境条件の良い痩せた土地の京菜より大きく育ち、枯れも生じないということから、環境よりも、栄養(土の肥沃さ)が重要な条件であることを見いだしています。さて、歯周病治療は、書物による研究と何千人という膨大な数の患者さんへの食事問診の結果、歯周病の方とそうでない方の食事には特徴があることがわかりました。そして、歯周病は歯周病でない方の食事パターンにしてやると治療に向かうことを発見しました。つまり、歯周病になる方は、カロリー、タンパク質、脂肪(特に動物性タンパク、脂肪)が突出し、生命活動に大切なビタミン、ミネラル類、食物繊維が極端に不足しているのに対し、歯周病でない方は逆に、ビタミン、ミネラル、食物繊維の摂取が突出して多く(写真4)、このパターンになるよう食事の指導を行ったのです。その結果、



多くのの方が歯周病を克服しました。歯周病にならない方の食の要点は未精白穀物、大豆・大豆製品、小魚、こま、緑黄色野菜、海藻を毎日食べるというもので、良い歯の会での指導の基本となっています。栄養のバランスだけでなく、化学物質が健康に及ぼす影響も配慮することが大切です。松枯れ問題での殺虫剤散布への反対運動の他、ハマチの養殖場への調査や近代養鶏場や養豚場の記事掲載など我々の食卓がかたに危険な食材で成り立っているのかに気付きを与えました。運動不足で、大量に飼育・養殖するために多量の抗生物質やビタミン剤等で薬漬けにされた鶏やハマチ、豚が我々の口に入る事、経済至上主義社会への警鐘を鳴らしています。背の曲がった背曲りハマチをミンチにしてマウスに食べさせると、マウスの骨も曲がり始めたという結果は衝撃的でした。



健康な人々とはどのような食生活をしていくのかを知り、理解を深めるため、MOAの大仁自然農場と赤城山学園で調査を行っています。

当院で推奨するバランス食「貝だくさん味噌汁」

健康な人々とはどのような食生活をしていくのかを知り、理解を深めるため、MOAの大仁自然農場と赤城山学園で調査を行っています。大仁自然農場で暮らす方の食事は自然農場で作られた安全なものを中心に主食が五分つき米、副食は野菜料理が中心で毎食必ず食べ、動物性食品は肉が少量、魚が週2〜3回、卵が農場の有精卵を週2回程度、植物性タンパクの煮豆、豆腐、納豆油揚げ等を毎日食べ、海藻、小魚の料理も多く当院で推奨する食事内容とほぼ同じです。赤城山学園では、動物性食品を一切取らず「できるだけ自然に」という考えで食生活をしていました。どちらで暮らす方にも歯周病はなく、健康そのものの肌の艶をしていました。健康であるためには、安全な空気や水そして理想の食生活、適度に汗を流して働き、信仰によつて支えられた精神の安定が必要であることを実感し、その後の患者さんへの指導へと活かされました。食の研究を重ねてきた良い歯の会が薦める理想の献立の代表的なものに「貝だくさん味噌汁」があります(写真6)。煮干し、昆布、干し椎茸をだしとして用い、そのまま引き揚げずに食べ、季節の野菜をたくさん使い、大豆タンパクの味噌で仕上げた栄養バランス満点の食べ物です。良い歯の会の試食の定番となり、定着しています。

健康な人々とはどのような食生活をしていくのかを知り、理解を深めるため、MOAの大仁自然農場と赤城山学園で調査を行っています。大仁自然農場で暮らす方の食事は自然農場で作られた安全なものを中心に主食が五分つき米、副食は野菜料理が中心で毎食必ず食べ、動物性食品は肉が少量、魚が週2〜3回、卵が農場の有精卵を週2回程度、植物性タンパクの煮豆、豆腐、納豆油揚げ等を毎日食べ、海藻、小魚の料理も多く当院で推奨する食事内容とほぼ同じです。赤城山学園では、動物性食品を一切取らず「できるだけ自然に」という考えで食生活をしていました。どちらで暮らす方にも歯周病はなく、健康そのものの肌の艶をしていました。健康であるためには、安全な空気や水そして理想の食生活、適度に汗を流して働き、信仰によつて支えられた精神の安定が必要であることを実感し、その後の患者さんへの指導へと活かされました。食の研究を重ねてきた良い歯の会が薦める理想の献立の代表的なものに「貝だくさん味噌汁」があります(写真6)。煮干し、昆布、干し椎茸をだしとして用い、そのまま引き揚げずに食べ、季節の野菜をたくさん使い、大豆タンパクの味噌で仕上げた栄養バランス満点の食べ物です。良い歯の会の試食の定番となり、定着しています。



健康な人々とはどのような食生活をしていくのかを知り、理解を深めるため、MOAの大仁自然農場と赤城山学園で調査を行っています。

(写真5)

経済至上主義が生んだ背曲りハマチ。食の安全について深く考えさせられた。

子育て・生き方、精神と健康

子供たちの歯や顎骨の良好な成長のため、食について理解を促すことは意義深く、食や環境について本質を理解する若者が増えてゆくことは、社会を変えてゆく上でも大切なことです。良い歯の会は、子供の食、子育てをテーマに活動の輪を広げました。添加物や農薬等の化学物質が原因で、子供たちが安心して食べられる本物の食材の入手が困難な現状を、「いのち」に掲載された多くの記事が読者に気づきを与え、現状に流されることに警鐘を鳴らしています。

また、手作りのお弁当は、添加物等の有害な化学物質を減らし、配慮すれば栄養バランスも良好ですが、最近ではお弁当を作る親が減っています。お金を渡せば十分と考える親が増えているのです。良い歯の会では、食は親の愛情そのものであり、子供の健全な心身の発育に非常に大切であると考え、これをテーマに、四周年記念講演会「食・親と子」を、多摩川動物公園園長であった中川志郎氏を招き開催しました。その反響は大変なもので、定員800名の会場が1000人の参加者であふれました(写真7)。学校給食のあり方

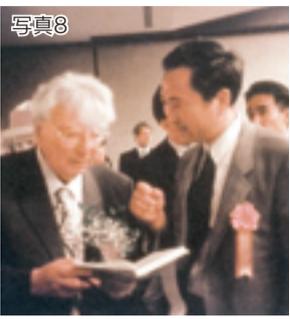


「食・親と子」の講演会。高崎市文化会館大ホールが定員オーバーとなった。

や問題点についても「いのち」で言及しています。当時、大分大学が登校拒否や家庭内暴力などの子供に清涼飲料水などの砂糖を断ち、未精白米、野菜を主体とした「健脳食」を与えたところ、千五百例のうち約八割が1、2か月で改善したという研究を発表、これを知り、給食を変えた学校を取材した結果、当院の食事指導とほぼ同じで、子供の健全な発

育にも当てはまる事が明らかとなりました。また、学校給食には自校方式と給食センター方式があり、後者は味や加工食品の多用、衛生面等で問題があり、学校給食という巨大市場で、利権が優先され、本来あるべき給食を変えてしまっていることに問題提起しています。

患者さんが食生活を見直せば、治療力が向上し、治療効果が上がります。その後の健康も大きく左右します。しかしながら、他人の食生活や考え方を考えることは簡単ではありません。「生き方の発見に支えられない食生活の改善は不可能である。食は栄養学でも料理でもない。食は生きざまなのである。」とのち10号に記されていますが、良い歯の会での講演を聞き、考え、感じ取り、感銘し、そこに発見があつて、多くの方が自ら生き方を変え、食を含む生活習慣を変えていきました。また、精神の持ち方が人間の健康を左右することをV・Eフランクル博士の著書「夜と霧」を引用しながらいのち12号や良い歯の会の中で講演してきました。丸橋先生の医学観に多大な影響を与えた方で、先生にとつて博士との出会いは大きな喜びでした(写真8)。



来日したフランクル博士と丸橋先生。

有の精神活動が大きく影響する。つまり、前向きに生きる意志を持った人間がどれほど強いのか、その免疫力が弱気でない状態にある人に比べてどれだけ強いのか「夜と霧」は教えてくれます。そして、人生の意味を知り、自分の内発的目的(真の目的)をもつて生きる事の大切さを良い歯の会、丸橋先生は説いてきました。良い歯の会に参加する方が健全ないのちを手に入れるため、多大な貢献をしてきたと言えます。

退化病の提唱

退化病の発想は多くの子供を観察することを契機に始まりました。検診をする歯並びの良い子供たちがほとんど見られなくなったのです。保育園の園児はカレーやコロケなどの柔らかい食事を好み、焼き魚やとんかつなどは「かたい」と訴えて食が進まない。さらにその親も「子供の好きなものだけを食べさせて」と訴えるそうです。硬い食物を食べていた縄文・古墳時代の歯並びは過半数が正常であるという調査結果から、良い歯の会では、咬まなくすすむ柔らかい食品の氾濫が顎の発育を悪くし、歯列不正を増やしたと考えました。さらに、前述した大仁自然農場や赤城山学園の食や歯並び等の調査で、そこに暮らす人々が非常に良い歯列をしていたことから、その考えが確信に変わりました。

退化について、元京都大学霊長類研究所所長の茂原信生先生の言葉を要約してみます。生物にはある方向に形の変化を始めるとその方向にどんどん変化が進み、元に戻ることができないという法則があります。退化しつつある我々の顎も元に戻ることはできないのかもしれない。ヒトの顎の退化は、道具を使い、火を使うという人類の特徴である「文化」を持ったその時から始まったと

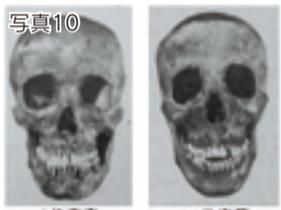


茂原先生と丸橋先生、研究室にて。

言われます。人の顎の退化は進化的に見て避けようのない現象です。しかし、その過程にみられる病的な退化は避けることができるのです。咬まないで食べられるアリを食べるアリクイの顎の退化は、数十万年、数百万年という時間をかけて生じたのに対し、我々の顎の退化は数十年

せいぜい数百年間の変化で、今までの生物の歴史にはなかった速さです。あまりに急激な変化で、身体がついてゆけず、病的な変化となっているのです。顎の病的な退化を防ぐためには適度に硬いものや繊維の多いものを食べ、よく噛むという顎の運動をすることです。体外消化が著しい現代の、流し込むようにして食べる食事が、顎をいつそう退化させる方向に進めています。茂原先生の研究に基づいて考えれば「退化病」についてさらなる確信を与えました。(写真9)

いのち14号では「心と体の退化病と闘う」と題して、丸橋先生自身の体験を語っています。病弱だった体が食生活を一変することで疲れ知らずの体になり、咬み合わせの調整や運動により、不快症状も完全に消えたこと記載されています。退化して狂った歯列のように、咬み合わせが狂うと、精神的にも支障をきたします。退化病に打ち勝つために、全人医療の柱の原型となる栄養バランスの改善・適度の運動・前向きに生きる・咬み合わせの改善の重要性がここに示されています。いのち24号では、最近の日本の若者に、身心の退化が顕著に増加していることについて警告し、その原因について言及しています。徳川将軍の頭骨を比較すると、江戸時代初期の将軍は歯列も



6代家宣と14代家茂の頭骨比較。6代家宣に比べ14代家茂では、下顎が細くなり、歯列不正がみられる。

歯も非常に良かったのですが、軟化とともに、代が進むごとに頭骨の退化が進行したことが分っています。(写真10)日本人の食文化や体の形態が急速に崩壊したのは戦後60年、特に最近の30年で、アメリカ文化の急速な浸透により身体がついてゆけず、退化病が生じているのです。日本人がかつて有った文化の形や質を取り戻すことも退化病に打ち勝つために必要と言えます。

海外調査から日本人を考える

「こういう所に来たら食べてみて。」丸橋先生は、あらゆるところで教育の機会を窺っています。マサイ族の調査からの帰路、立ち寄ったオランダの街角での出来事が今も思い出されます。日本のファーストフード店のような店でサンドイッチを購入して食べてみたのです。それは、未精白の硬いパンに、シンプルな味付けの野菜やハム。パン生地は日本のような砂糖の甘みは感じられませんが、食べると素直に体に一体化してゆき、美味しい。特別な店を探さずとも、どこでもこの味が手に入る。これがオランダのスタンダードなんだと衝撃を受けました。いのち16、17号に掲載されていますが、ヨーロッパには伝統を大切に安定した保守主義があり、自然・文化・食などが変わることを忌む定着している、その一端を見たような気がします。いのち「ち」では日本の近年、特に戦後の自然・文化・食が急速に変化し、それとともに日本人の体や精神が急速に崩壊しつつあることを繰り返し警告してきましたが、海外での文化や食とそこに住む人々を日本と見比べると、それは確信に変わります。そして、ヨーロッパでの取材を通じて、自然・文化・食が変わることなく守られる中で、変わることはない命が守られることを実感し、良い歯の会で繰り返し伝えてきました。

良い歯の会では海外での大規模調査も行ってきました。アフリカ、マサイ族の調査では、彼らの視力や運動能力が驚異的であるのに驚きました。(写真11) 食事内容はミルク、



マサイ族の調査風景。

牛の血液、肉等、何十万年もの間に体に適合した食べ物で、日本人とは食事内容が異なりますが、歯磨きを十分しないのに歯周病の人がほとんどなく、歯並びは、アーチが大きくU字型です。また、硬い物をよく噛んでいるようで臼歯の歯冠は十分萌出し、直立しています。我が国が一時間も過酷な環境に置かれたら、健康状態もよく、姿勢の乱れもありませんでした。日本人と同じモンゴロイドであるモンゴル人の調査も行いました。調査の目的は、文明が入り、加工された食品を食べる都市部のウランバートルの人と、昔ながらの自給自足生活を送る遊牧民にどのような違いがあるかを比較することでした。遊牧民の歯並びや歯の放出状態はマサイ族と同様アーチが大きくU字型で、臼歯の歯冠も十分萌出し、直立しており、咬合力も非常に強いという結果でした。(写真12) これに対し、ウランバートルの



遊牧民の歯並びと顔貌。

方は日本の生活様式に近く、歯並びが乱れ、臼歯の歯冠が内側に倒れ萌出も不十分で、虫歯が見られました。日本の戦前、戦後の経時的変化を同時期に比較検討でき、運動や食習慣が変わると人は簡単に変わることを理解できました。プータンでも調査を行っています。農村部のプータンでの調査では、日本に比べ、歯科医が極端に少ないため虫歯は多いものの、顎の発達は良く、咬む力も強かったのですが、都市部の若者は、肉体的労働の敬遠とタイやインドから流入する食の変化により顎の形態や咬む力において日本の若者と同じ傾向を認めました。海外調査において、運動や食等、昔ながらの生活習慣の基本を保守することの大切さを実感し、その内容は今も良い歯に参加する方々にお伝えしています。

広く世の中への提言活動

「良い歯の会は人々が正しい選択をして健康に暮らしてゆくために、真実を提言し続ける運動体である」と丸橋先生は常々考え、本の出版等を行ってきました。さらに良い歯の会では、今までの活動、理念をできるだけ多くの方に知っていただくため、講師の先生をお招きして講演会を開催してきました。免疫学の世界的な権威である安保徹先生には二度の講演を頂きました。ストレスや過労が続くと交感神経が緊張し、免疫力が低下すると同時に、血流が悪くなり低体温、低酸素状態に陥ります。無酸素で働く解糖系が優位になる事、これがガンの原因で、有酸素で働くミトコンドリア優位な状況を作り出す生活、つまり体を温める、深呼吸や有酸素運動をする、腸内免疫を高めるような食事を工夫する等の生活が健康に大切であることを示されました。

(写真13)「食品の裏側」の著者、安部司先生には「食の本当の豊かさとは」と題して講演をいただきました。毎日我々が口にしている食品がどうやってつくられ、その「裏側」でどのような添加物がどれだけ使われているのか。もはや食べ物とは言えないような食品が氾濫している社会で、聞く人々に食について考える機会を与えました。「奇跡のリンゴ」の著者、木村秋則氏の講演では、生命を謙虚に観察することの大切さを学びました。家森幸男先生には、世界を歩いて研究した結果を「究極の健康長寿食」と題して講演頂きました。



2009年東京講演での安部先生。

今後、良い歯の会は自然、環境健康、食等広い視点で観察し、提言活動を行ってゆきつくりです。

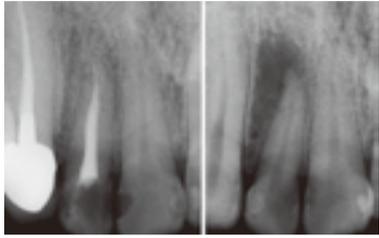
-35年の医療力-

全人的医療思想と 高度な技術が患者さんを救う

抜かない治療をこころがけています

丸橋フアミリー歯科

院長 青木博之



写真① 黒れ認められ、腐敗した歯髄が認められる。写真② 根管が完全な状態で、黒い病巣が消失した。

「根管治療」は、歯科治療の中でも基本中の基本と言えますが、完璧な治療を行うことが非常に難しい反面、良い治療を行っても評価されにくいといった特徴があります。これは、たとえ根管治療に問題があったとしても自覚症状が乏しいため患者さん本人も治療の良し悪しが判断できないことが原因しています。経済的な評価も十分とは言えず、単純な比較ではありますが学会の会員数などをみると、インプラントなどと比べて熱心な先生がかなり少ないことが分かります。

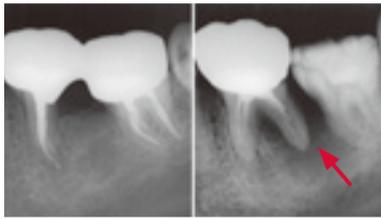
《日本口腔インプラント学会会員数約14,000人、日本歯内療法学会（根管治療学会）会員数約2,100人》

しかし、このような根管治療に対し、丸橋歯科ではドクター全員が十分な研修を受け、全力にて治療を行ってきました。私の勤務する丸橋フアミリー歯科では根管治療は全て保険治療にて行っておりますが、丸橋歯科の理念を全うすべく同じように全力にて取り組んでいます。

「症例1」歯髄が腐敗するまで虫歯を放置したために、最終的には炎症が歯槽骨の中まで進行し、写真①のように隣の歯根近くまで真っ黒な病巣が溢れ出ていた状態でした。症状は重篤でもきちんとした根管治療を施せば問題解決は簡単です。歯根の先端までピッタリ充填材を封入することで歯周組織は見違えるように回復します。写真②は治療後7年が経過したものです。炎症の再発は全くありません。

「症例2」患者さんはまだ20代の女性ですが、不良な根管治療が原因で非常に悲惨な状況になっていました。治療前写真（写真③）の中央に写る歯根は、根の先端より深くはるか深くまで歯槽骨が吸収し、完全に歯槽骨から分離した状態でした。この歯根を見ると、白く写る根管充填材が途中までしか入っており、先端部分の根管が真っ黒で、治療されずに放置されているのが分かります。この部分の歯髄が腐敗し、細菌の温床となっていたため非常に大きな病巣ができてしまったわけですね。隣の歯も根尖近くまで骨吸収が起きているため、2本の歯共に動揺が強くなり、抜歯直前の状態でした。

「症例3」20代女性。骨が十分に溶けていない（矢印）。写真④は治療後、当院で大きく回復した。



写真③ 20代女性。骨が十分に溶けていない（矢印）。写真④は治療後、当院で大きく回復した。

根管が真っ黒で、治療されずに放置されているのが分かります。この部分の歯髄が腐敗し、細菌の温床となっていたため非常に大きな病巣ができてしまったわけですね。隣の歯も根尖近くまで骨吸収が起きているため、2本の歯共に動揺が強くなり、抜歯直前の状態でした。

抜歯をしてインプラント、という治療法も考えられる状態でしたが、20代という年齢を考えるとあまりにも痛ましく、できるだけ歯を残すという事で治療を行いました。

歯を半分に分割し、歯槽骨の吸収が著しい歯根は取り除きました。残った歯根と隣の歯の湾曲した歯根を丁寧に根管治療し、連結してブリッジにて補綴処置を行いました。

写真④は治療後1か月後の状態です。驚くような回復力を示しました。歯根の一本は失ったものの、歯槽骨が回復し、歯の動揺はなくなり、健全な状態を取り戻しました。

可能性を秘めた全人歯科医療

丸橋全人歯科口腔外科部長 辻本仁志

高まりつつある統合医療への期待

最近、新薬の治験の不正問題や過剰な投薬、手術が問題となっている事例をよく見かけます。歯科でも不適切な治療が原因で短期間に再治療を繰り返す例が多く見られ、健康保険行政を圧迫する一因となっています。もちろんこのようなことは患者さんの健康にとってもマイナスです。一方で、日本の借金は年々増加しています。その増加の一つの大きな理由が社会保障給付費の増加にあります。超高齢社会となった日本は、医療や介護に要する公費負担が年々増加しているのです。高血圧や糖尿病などの慢性病を薬で制御して、病気が治ったと言えるでしょうか？歯周病も根本的な原因に手を打たなければ、完治することはありません。統合医療とは、人間の持つ自然治癒力を最大限に生かすこと、西洋医学のみに頼らず、東洋医学や整体、カイロプラクティックなど、治療に効くとされるすべての分野を統合して医療を行うものです。さらに、セルフコントロールを重視し、食を中心とする生活習慣の改善により、病気を治すのみでなく、病を未然に防ぎ、病気の真の原因に対処するものです。このような取り組みは、当然既存の利益団体から強い圧力を受けますが、日本だけでなく、アメリカやイギリスも医療費が財政を圧迫しており、患者さん本位の治療の流れはもはや止められず、日本政府も統合医療プロジェクトチームを作り、真剣に検討を始めています。

歯は健康の鍵

「支持されてきた全人的歯科医療」

良い歯の会は自然環境や食、子育てや生き方等健康の本質にかかわるテーマについて、多くの方々の力を借りながら研究を重ねてきました。その中で、患者さんを全人的に治療してゆくためには、食事・咬合・休養・精神のバランスを整えることが必要と提唱し、実際の治療や指導に取り入れ、実績を上げています。診療室には絵画や野の草花が飾られ、患者さんの心を和ませ、免疫力や治る力を引き出す工夫がなされています。世界の統合医療の第一人者、アンドリューワイル博士が来日し、講演を行いました。食事は絵画、花を使って心のバランスを整えるという総合的な治療は統合医療でも行われている手法で、ワイル博士は日本食を好み、健康を維持しています。丸橋歯科の治療は、歯科での統合医療のさきがけと言え、今でも体系的に治療を行う唯一の医院であると言えます。その全人的治療成果が今まで支持を受けてきた最大の理由です。

「歯は健康の鍵」

当院で推奨する食事内容が健康にとつて欠かせないものであり、歯科での治療結果、長期の予後を安定的に維持する鍵であることは、多くの治療例や文献、実例等からもはや疑いの余地はありません。このような食事を味わい、摂取するためには健康な歯は欠かせません。また、歯は体のバランスを整えており、咬み合わせの不具合が多くなると身体症状や自律神経の不調を引き起こし、心のバランスまで狂わせることは多くの研究結果から明らかになりました。当院での治療でも多くの例で確認されています。歯は健康にとつて一つの大きな鍵となつていると言えます。

「歯を失った人の健康を取り戻す」

歯を失えば、そこに自然治癒力は働きません。西洋医学的手法は急性の病気を生じ死にかかわる緊急処置、奇形や外傷の他、歯の治療にも非常に有効で、つまりは、最先端の技術を極めることが不可欠です。無くなったものは補うしかなく、歯を補い、咬合を回復することで健康を取り戻すためにインプラント治療があります。一方で、造骨手術や治療の長期の予後については全人的な取り組みが欠かせません。骨の再生力や傷みの治療力、細菌に打ち勝つ免疫力が短期での治療の予後と長期の治療の

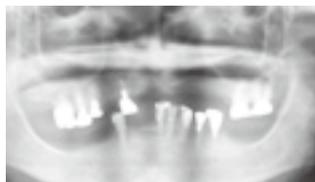
患者さんからの声

「爽やかな老後」

主婦 匿名（千葉県 66歳）

小学生の頃から歯科通院を繰り返し、歯痛や抜歯に閉口しながらも改善出来ずに過ごしてきた結果、五十代半ばの頃の私の歯は殆ど無くなって、部分入歯とブリッジで支えられていました。右顎が下がり人相も悪化、肩の歪みは肩こりも起こしてしまいました。何とか改善したいと願い、図書館へ行く息子に「入れ歯」の本を借りて来る様頼みました。ところが手にしたのが辻本先生の「インプラントの実践」でした。この治療が良いものだという事は聞いていたのですが高額の事で諦めておりました。でもせっかくなので拝読しました所、多くの症例の中にはまるで私の事では無いかと思える箇所もあり、焦りませんでした。丁寧な説明と先生の歯科医療の使命感や誠実さがヒシヒシと伝わりました。先生に助けを頂く他は無しと決心致しました。あの日自分で「入れ歯」の本を借りていたらと思うと偶然の不思議さに心打たれます。

治療には一ヶ月に一度の通院で、約四年間通いました。骨が吸収し、増骨手術が必要な事や、インプラントの数も多かったものでこれだけの期間が要したのでしよう。辻本先生の神業とも思える高度の技術に圧倒させられながら全てを信頼し、お任せ出来たのは幸いでした。術後五年経ちましたがインプラントのおかげで心身共、頗る快適です。顎や肩の歪みが改善し、噛める食事のせいか去年度の保険証使用は一回のみでした。



治療前。奥歯がなく、顔貌のゆがみも認められた。肩こりや腰痛に悩まされていた。



治療後。五年経過。姿勢や顔貌は改善したまま安定し、体調もよい。



治療後の口腔内。何でも噛める食事が可能になった。

幸せな第二の人生

主婦

金子とし（埼玉県 86歳）

私は五十歳の時、右奥歯が痛み、近所の歯科医院を受診しました。炎症があっても良くなると、抜歯をするのに検査もなく、即麻酔を注射され、頻拍性不整脈になり、救急車で搬送され、入院しました。先生から

麻酔は怖いからと説明を受けてから、私の苦悩の日々が始まりました。私が、歯で長く苦しんでいたのを知り、丸橋歯科を紹介してください。長野県境の町から高崎まで私を自家用車で送って下さった大恩人は、近

